

## 平成18年度環境監視結果年報の概要

### 1 結果取りまとめの期間

平成18年4月から平成19年3月まで

### 2 環境監視の項目

#### (1) 空港島等の存在に係る項目

海水の流れ及び水質、底質、汀線、海域生物、鳥類並びに海浜植物

#### (2) 空港の供用に係る項目

一般環境大気質、騒音及び鳥類(ワシタカ類等渡り鳥)

### 3 評価の内容(総合評価)

#### (1) 空港島等の存在に係る環境監視結果

##### ア 環境基準値との比較

水質の項目のうち、化学的酸素要求量(COD)、全窒素(T-N)、全燐(T-P)について環境監視結果と環境基準値との比較をした結果、調査点TS5及びTS6のCOD以外は、環境基準値を上回っていたが、愛知県が実施した周辺の公共用水域等水質調査結果と比較した結果、ほぼ同様が若干低い傾向であった。

##### イ 過年度データとの比較

存在に係る全ての項目について、過年度データとの比較(空港島等の存在後と存在前とのデータ比較)をした結果、環境監視結果は、次の場合を除いて、ほとんど変化がなかった。

- ・海水の流れについては、平成18年度の蒲池沖の表層の流向が平成12年度から平成16年度よりもやや西側に向かう傾向がみられた。また、小鈴谷沖の流速が平成12年度から平成16年度よりもやや大きくなっている傾向がみられた。
- ・底質については、平成15年度以降、調査点TS2及びTS6においてCODの減少がみられていたが、平成17年度からはほぼ横ばいであった。
- ・汀線位置については、平成5年度から平成18年度までの長期間では、ほとんどの区間で前進または後退の様々な変化がみられたが、平成14年度以降は比較的安定しており、平成17年度から平成18年度の短期間では、大きな変化はみられなかった。
- ・海域生物のうち、藻場(アマモ場分布)については平成8年度以前よりも分布面積が拡大しているが、平成13年度以降は安定しており、自然変動の範囲内と考えられた。
- ・鳥類については、スズガモが対岸部内の閉鎖性水域、コアジサシが空港

島等の裸地に依存して一時的に増加したものの、平成18年度は概ね空港島等の存在前の状況に収束しつつあるものと考えられた。

- ・海浜植物については、常滑市新田町海岸におけるネコノシタに減少がみられた。その原因は隣接地で実施された空港事業以外の工事によるものであった。

#### ウ 予測結果との比較

海水の流れ及び水質、汀線、海域生物並びに海浜植物について、予測結果との比較をした結果は以下のとおりであり、概ね予測の範囲内であった。

- ・海水の流れについては、流れのゆるやかな空港島南側で夏季の第3層の流向に違いがみられたことを除いて、空港島周辺の夏季、冬季の流向・流速とも、予測結果とほぼ同様の傾向であった。
- ・水質のうち、COD、T・N、T・Pについては、夏季、冬季の第1層及び第2層ともにCODは予測結果よりやや低く、T・Nは予測結果よりやや低いかほぼ同程度であり、T・Pは予測結果とほぼ同程度であった。
- ・汀線については、護岸改修等の工事箇所を除いて、変化の傾向は同じであり、ほぼ予測の範囲内であった。
- ・海域生物については、藻場の分布面積が平成8年度以前よりも拡大しているが、その他の項目についてはほぼ予測の範囲内であった。
- ・海浜植物については、空港事業以外の工事が原因による生育面積の減少が一部でみられる場合があったが、それ以外では、概ね生育面積は予測をやや上回っていた。

### (2) 空港の供用に係る環境監視結果

#### ア 環境基準値等との比較

一般環境大気質については環境基準値や指針値と、航空機騒音については環境基準値と比較した結果、環境監視結果は、次の場合を除いて環境基準値または指針値以下であった。

- ・浮遊粒子状物質(SPM)については長期的評価の環境基準値を下回っていたが、短期的評価の環境基準値を1回上回った。なお、当日のSPMの高濃度は広域的な現象であり、黄砂による影響が考えられた。また、光化学オキシダント(Ox)については環境基準値を上回っていたが、周辺の愛知県管理の大気汚染測定局においても環境基準値を上回っており、広域的な現象であった。

#### イ 過年度データとの比較

一般環境大気質、航空機騒音及び鳥類(ワシタカ類等渡り鳥)について、過年度データとの比較(空港の供用後と供用前とのデータ比較)をした結果、環境監視結果は、次の場合を除いて、供用前後の計測値や出現状況にほとんど変化がなかった。

- ・ワシタカ類等渡り鳥については、美浜町富具崎での飛翔経路及び飛翔高度が過年度と異なっていた。その原因は調査日が強風であったためと考えられた。

### (3) まとめ

平成18年度の環境監視結果では、存在及び供用に伴う環境への影響はほとんど認められなかった。

なお、海水の流れ及び水質、汀線、海域生物並びに海浜植物について、予測結果との比較をした結果は、概ね予測の範囲内であった。

(参考)

空港島及び対岸部の環境監視に関する検討委員会構成員

	氏 名	役 職 等
委員長	<small>いわた こういちろう</small> 岩田 好一朗	中部大学工学部都市建設工学科教授
委員	<small>おがさわら あきお</small> 小笠原 昭夫	名古屋学芸大学非常勤講師
委員	<small>きただ としひろ</small> 北田 敏廣	豊橋技術科学大学エコロジー工学系教授
委員	<small>くどう せいとく</small> 工藤 盛徳	東海大学名誉教授
委員	<small>ひぐち よしあき</small> 樋口 嘉章	国土交通省国土技術政策総合研究所 沿岸海洋研究部長
委員	<small>よしひさ こういち</small> 吉久 光一	名城大学理工学部建築学科教授